



平成26年3月4日

各 位

上場会社名 株式会社ジーンテクノサイエンス
 代表者 代表取締役社長 河南 雅成
 (コード番号 4584)
 問合せ先責任者 取締役CFO 三ツ木 勝俊
 (TEL 03-3517-1353)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成25年8月5日に公表いたしました業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成26年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	312	△965	△974	△977	△452.04
今回修正予想(B)	299	△596	△601	△604	△279.57
増減額(B-A)	△12	369	372	372	
増減率(%)	△4.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期)	60	△358	△373	△377	△238.20

修正の理由

売上高につきましては、富士製薬工業(株)及び持田製薬(株)によるG-CSF製剤の各医療機関への導入・拡販が順調に進み、当社のG-CSF原薬販売についても当事業年度の販売計画ロット数の納品が既に完了しております。このため、通期ではほぼ予想どおりの売上高となる見込みであります。また、ロット毎に原薬の生産量の変動することから、金額ベースでは若干の誤差が生じる見込みであります。

また、研究開発の状況といたしましては、PEG-G-CSFの製造プロセスの確立をはじめ、伊藤忠ケミカルフロンティア(株)及び(株)三和化学研究所との共同開発など、順調に研究開発が進捗しております。一方で、バイオ医薬品の開発経験が豊富な人材を増員し、開発プロセスの効率化も同時並行で進めてまいりました。不要不急のコスト圧縮に積極的に取り組んだ結果、当事業年度の研究開発費は476百万円となる見込みであり、これに伴い損益が大幅に改善される見込みとなりました。

当社は、今後も不要不急のコスト圧縮に取り組む一方で、企業価値を高める上で重要な局面では積極的な研究開発投資を行い、スピーディーに開発ステージを上げてまいりたいと考えております。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上